

全国委員長会議開催（2022年10月4～5日）

「年金引き上げと年金裁判の勝利 組織の前進と飛躍を」と意思統一



10月4日午後から5日の午後にかけて、全国委員長会議を東京豊島区のラパスホールで開催しました。

杉澤中央執行委員長の開会挨拶の後、廣岡書記長が基調報告を行いました。

第一部は岡山県本部木村書記長と千葉県本部岩崎委員長の特別報告の後、「組織拡大」についての議論が行われました。役員の高齢化に伴う困難性とともに関東各支部での工夫した取り組みの様子が語られました。中央本部田中副委員長がまとめの発言をしました。

第二部は4日の京都県本部山本委員長と、5日の埼玉県本部宇佐美委員長による特別報告を受け「要求実現の運動」についての議論が行われました。とりわけ、補聴器補助問題と住民の足である交通機関問題の取り組みの発言が多くありました。中央本部廣岡書記長がまとめの発言を行いました。

第三部は兵庫県本部関根委員長と山梨県本部山田委員長による特別報告を受け「裁判運動」についての議論がされました。現在、山梨と兵庫については最高裁への上告をしており、福岡・佐賀、奈良、岩手、栃木については上告理由書を作成中です。山梨については7月7日に、兵庫は8月29日に上告理由書を提出しているにもかかわらず、最高裁の受理が完了しておらず、扱いについ

ての不安が広がっています。本年から来年かけて高裁での結審・判決が予定されており、どのように運動を進めるか、意見が出されました。中央本部飯野副委員長がまとめの発言を行いました。

最後に廣岡書記長が、全国委員長会議全体のまとめとして①年金上げの運動を前進させ、年金増額を勝ち取る。とりわけ陳情署名の運動を大きく広げ、10.14支給日宣伝と年金一揆の取り組みを成功させよう②年金裁判勝利に向けて、2月に1回の最高裁前宣伝・要請行動とともに、全国から最高裁包囲の運動を③秋の拡大月間の目標の指針は「1万人10%」。すべての活動を組織拡大に結びつけて、と訴えました。

